

2017年度 プロジェクトメンバー募集!

自分の力を試しながら、仲間と充実の1年を過ごしませんか?
本年度のプロジェクトメンバー募集に関するイベントは下記のとおり開催予定!ぜひご参加ください。また、スタジオZeroが制作しているプロジェクト情報誌「ippo」も館内およびキャンパス内各所で配布しています。



同志社ローム記念館プロジェクトメンバー募集イベント

- 4月2日(日)~6日(木) 11:00~16:30
「見て知る“プロジェクト”とは」@GFオープンテラス(正面入口付近)
各プロジェクトの情報を一度に集めよう!
- 4月10日(月)~14日(金)・17日(月)~21日(金) 16:45~18:45
「聞いて分かる“プロジェクト”のすべて」@各プロジェクトルーム(2F・3F)
活動拠点であるプロジェクトルームで直接話を聞いてみよう!
- 4月17日(月) 16:30~19:00
「プロジェクト交流会」@1F PCエリア
プロジェクトのコアメンバーと楽しく交流!

編集後記

同志社ローム記念館事務室に着任して1年が経つ。4月には初々しかった新メンバー達も、1年間の活動を通して頼もしく成長し、凛とした表情が見られるようになった。事務室からは連日夜遅くまで明かりが灯るプロジェクトルームや、活発に意見を交わすメンバーの様子が伺える。時には活動が順調に進まず、事務室に相談に来て解決策を共に考えることも。そんな彼らの頑張り刺激され、気が引き締まる毎日だ。大きなイベントの際には、必ず卒業メンバー達が訪れる。先輩から相談を受け、親身になってアドバイスする様子を目にし、これまで培われてきたローム記念館プロジェクトの絆を感じた。14期目のプロジェクトが本格的なスタートを切った。歴代の先輩から受け継がれてきた意志を、新たな世代がどう発展させるか楽しみにしている。



(同志社ローム記念館事務室 福本那津子)

表紙の人

よねだ ひろたか
米田 浩崇 さん
同志社大学理工学部
インテリジェント情報工学科3年次生

クールな表情の内に秘めた熱い思い。毎月開催していたロボット教室の準備に追われる日々、先輩メンバーとともに、こだわり尽くしたと胸を張れる。自分達の努力や良さを伝えるべく最終成果報告会で見せたロボットの紹介動画、美しいスライドが今年最後のこだわり。息つく間のない1年だった。

プロジェクト・サポート募金のお願い

学校法人同志社
総長 八田 英二
理事長 水谷 誠

学校法人同志社は、同志社大学ならびに同志社女子大学を中心とした法人内各学校が一致協力して同志社ローム記念館でのプロジェクト主義に基づく新しい教育・人材育成を積極的に進めています。また、これまで現代GFP申請による補助金獲得など大学資金を積極的にとりいれるべく努力をしております。

この同志社独自の新しい教育・人材育成事業を発展的に展開させるために、教職員をはじめ広く社会、市民のみならず皆様からご支援をお願いすることとし、プロジェクト・サポート募金を実施しております。皆様方におかれましては是非ともご賛同いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。募金のパンフレットおよび詳細につきましては、大学京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)にお問い合わせください。

募金は、大学資金課、女子大学経理課、各校事務室でも受け付けます。



同志社ローム記念館
とは...

京都に本社を置く半導体メーカー、ローム株式会社の寄付をもとに2003年に設立されました。
学生・生徒が集う開放的な学びの空間があり、1年を通して様々な課題に取り組む、「同志社ローム記念館プロジェクト」の拠点としても活用される情報教育施設です。

同志社ローム記念館 プロジェクト・レポート

DIR

[ディー・アール]

Project Generation

2017年度プロジェクトメンバー募集!

Project Generation

2003年のオープン以来、「プロジェクト」の実践による学びの場を提供している同志社ローム記念館。仲間と目標を共有し、高い成果を目指して取り組むプロセスの中で、自分達でつくり上げることの楽しさや喜びを知る。メンバーとの関係性により相互作用が生み出されることやその重要性に気づく。プロジェクトや仲間のために、自分がどうふるまうべきか、何を発信すべきか、活動をとおして「使えるコミュカ」を身につける。

座学中心の講義からアクティブラーニングへ、ソフトウェアなどの開発現場におけるハッカソンの展開など、他者との関係を築きながら展開する「プロジェクト」的な活動は一般的になった。さまざまな社会の変化に柔軟に対応し、活躍できる人材を輩出すべく、「同志社ローム記念館」らしいプロジェクトを追求し、更なる発展をめざす。

2017年度 新世代プロジェクト始動!

同志社ローム記念館では、4月から3月の1年間のプロジェクトの活動期間として定められている。「1年」のプロジェクトだからこそ、思い切って取り組むことができる。連なりと新しさ、この春も新世代のアツイプロジェクトが走り出す。



RM206 アトリエフレームワークス

動く、触れる、音を出す…観客が参加することで、作品の意味や楽しさを感じるデジタルアート。イベントや各種展覧会などで注目されるようになったが、まだまだ遠い存在だ。創る人にとっても、観る人にとっても、もっと身近に感じられる作品づくりを目指す。

- ◆主な活動
 - ・幻想的な世界を「部屋」で表現するインタラクティブ・アート作品の制作
 - ・イベントと連動したインタラクティブ・アート作品の企画・制作
- ◆プロジェクト責任者
松谷容作 (同志社女子大学学芸学部助教)

RM306 えこ学@京田辺

この名前のプロジェクトも3年目。小学生向けの環境教育プログラムづくりに取り組んだこれまでの実績をもとに、今年は「京田辺」オリジナルのプログラムでの完成を目指す。まちを知り、環境を身近なものとして考える。子どもたちに新たな学びを提供したい。

- ◆主な活動
 - ・まちの環境を活かした京田辺市内小学校での環境教育授業の企画・運営
 - ・京田辺市内での環境活動イベントの開催
- ◆参加団体 京田辺市教育委員会
- ◆プロジェクト責任者
畠山 啓 (同志社女子大学現代社会学部助教)

RM307 きづのもり商品開発本部

「木津川市プロデュースプロジェクト」の取組と、2015年度の活動で開発した「きづのもり」マークの認知度も少しずつ向上、市内での活動でも応援してくれる人が増えた。木津川市の魅力を市内外に発信すべく、まちに根付いた活動で新しい商品・コンテンツの開発を目指す。

- ◆主な活動
 - ・木津川市の地域資源を活用した商品開発(市内小中学生との連携)と発信
 - ・新たな「まちの魅力案内」ホームページの企画・開発
- ◆参加団体 木津川市教育委員会
特定非営利活動法人 プロデュース・テクノロジー開発センター
- ◆プロジェクト責任者
飛龍志津子 (同志社大学生命医科学部准教授)

RM308 プロンティアット VR

VR技術を活用したプロジェクトは3期目。先輩たちから学び、自分達なりのやり方も見えてきた。新しいVRゲームの開発に挑み、そのプロセスを伝え続ける。始めたころ、技術を学ぶことも難しかったこれまでの活動で実感した課題と楽しさ、VRというフロンティアにおける先駆者として、VR開発者のロールモデルを目指す。

- ◆主な活動
 - ・Oculus Riftを用いたVRゲームの企画・開発
 - ・Webサイトによるゲーム開発記録やVR技術の公開
- ◆参加団体 京田辺市教育委員会
- ◆プロジェクト責任者
大久保雅史 (同志社大学理工学部教授)

企業の 視点を 知る

短期間のチャレンジプロジェクト

1年間という期間で取り組むプロジェクトに加え、2017年度は企業の持つ課題に、企業人とともに取り組む数か月間のプロジェクトを展開する。

企業としての社会の捉え方や取り組む課題を知り、ともに課題解決に挑むこの企画。短期間でのプロジェクトだからこそ、深く考える集中力とスピードが求められる。学部や学科、学年などでの参加条件はなく、多様なメンバーによるプロジェクトを展開予定。スキルや経験を活かし、ぜひチャレンジしてほしい。

詳しい内容は、順次公開予定のWebサイトやポスターでチェック。



OMRON オムロン株式会社

京阪奈イノベーションセンタ センシング研究開発センタとの連携によるプロジェクト。センシング技術を駆使して開発された製品をもとに、「未来社会に貢献する技術 (<http://www.omron.co.jp/innovation/>)」の活用を考える。



ROHM ローム株式会社

自動車や家電やIT機器など、私たちの生活を支えるさまざまな製品に不可欠な半導体。その技術や活用、発信を考えるプロジェクトを同志社ローム記念館の恒例イベント「ロームフェア」との連動企画で展開予定。

Pick up!

プレゼンテーションとは？

「マイクロソフトエバンジェリスト 澤 円が教える～プレゼンの極意～」

2017年1月16日 (月) 12:20～14:00



同志社ローム記念館プロジェクトでは、年2回、自分達の活動や成果を伝える報告会が開催される。9月に開催された中間報告会では、どのチームも、伝えたいこと、伝えるべきことがしっかり評価者に伝え切れていなかったという反省点を受け、スタジオZeroが企画したが、今回のプレゼンテーション勉強会だ。

より多くの学生に学んでもらおうと、劇場空間での公開形式とし、日本マイクロソフト株式会社マイクロソフトテクノロジーセンター センター長の澤 円氏を講師に招いて開催された。

プレゼンテーションの構成や手法だけでなく、なぜ伝えるのか、誰に伝えるのか、プレゼンテーションによってどんな結果を生み出したいのか、プレゼンテーションを取り巻く幅広い内容の講演に、参加者はメモを片手に熱心に聞き入った。

ごあいさつ

同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会委員長
竹廣 良司 (同志社大学 経済学部教授)



このたび、大久保雅史先生から同志社ローム記念館プロジェクト運営委員長を引き継ぎさせていただくことになりました。ローム記念館プロジェクトの始動当初から関わってまいりましたが、このたび運営委員長を務めさせていただくことになり、身の引き締まる思いです。

2013年度の同志社大学文系学部の今出川移転を機に、経済学部教員の私は京田辺との関わりが少し低くなってしまいました。しかし、ローム記念館プロジェクトのことは常に気がかりで、少し距離を置いたことで気づいたこともあります。今後、学生諸君や運営に関わっていただく皆さんとも、さまざまな思いを共有しながら、新たな挑戦にも取り組んでいきたいと考えていますが、まずは学生諸君に顔を覚えてもらうことが最初の課題です。

運営委員やワーキンググループ委員の先生方、事務局の皆さまには、これまで以上にご協力いただきますようお願いいたします。ローム株式会社をはじめとする企業や地域の皆さまにも、引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。



「ウルシ×○○[japan] productsの開発」

10/18～1/10 毎週火曜日 17:00～18:30

第6期目となる今回のテーマは「新しいウルシ商品の開発」。

漆のアート作品を数多く発表されている榎本さや香氏を講師としてお招きし、日本を代表する工芸技術である漆工芸の技法を学びながら、その特性を活かしたユニークな商品を企画、全11回のプログラムで商品化を目指す。商品企画に関わるプロセスは同志社大学理工学部の土屋誠司准教授、今回使用する漆の代替塗料カシューの取り扱いについてはカシュー株式会社の吉川圭輔氏にそれぞれご指導いただいた。

同志社大学両校地をはじめ、同志社女子大学、同志社国際高等学校から集まった参加者は24名。4つのグループに分かれて始まった活動では、学部や学年を超えたメンバーと活発に意見交換する様子や、特殊な塗料の扱いに苦戦しながらも協力して作業を進める様子が伺えた。

最終回となる合評会では各グループが工夫して試作品を展示し、審査員の前でプレゼン形式により発表を行った。作品の出来だけでなく、プロジェクト活動に必要なスケジューリングやチームワークなども評価され、Best [japan] productと特別賞が選考された。今回の経験を今後の活動の場でも活かしてもらいたい。



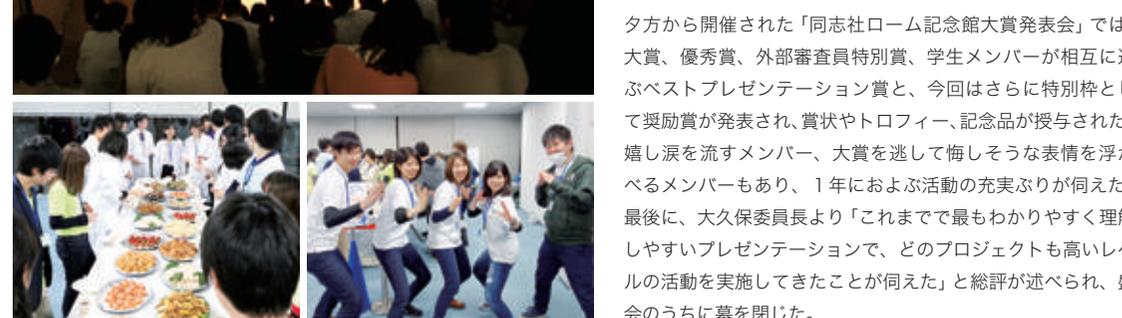


2016年度 最終成果報告会・同志社ローム記念館大賞発表会

2017年3月4日(土)、同志社ローム記念館劇場空間において第13期プロジェクトの1年間の集大成となる最終成果報告会が開催された。報告会を運営するのは「スタジオZero」。プロジェクト活動をサポートする立場の彼らは、最高の発表の場を提供すべく、司会や機材操作、舞台装飾をはじめとするステージの演出を約3ヶ月かけ準備し、入念なリハーサルを重ねてこの日に臨んだ。



前半は各チーム13分間のプレゼンテーションと5分間の質疑応答。1年間の活動過程と成果を十分に伝えるため、動画や演出に力を入れるなど、どのチームも工夫を凝らし、熱のこもった発表となった。続く後半には会場を移し、活動内容や成果物が展示された各プロジェクトのブースを巡ってメンバーに質疑を行う質問タイムが設けられた。スマートフォン用アプリやロボット、動画作品など完成度の高い成果物に、立ち寄った審査員や他のプロジェクトメンバーから様々な質問が寄せられ、熱心に答えるメンバーの姿が見られた。賞の選考が行われている間、メンバーは「テレビ番組」をテーマに開催された交流会に参加。キャスターに扮したメンバーが、1年間を振り返るクイズをはじめ、お天気、占いなどの楽しいコーナー企画を進行し、緊張のほぐれた会場では大きな笑いが起こった。



夕方から開催された「同志社ローム記念館大賞発表会」では、大賞、優秀賞、外部審査員特別賞、学生メンバーが相互に選ぶベストプレゼンテーション賞と、今回はさらに特別枠として奨励賞が発表され、賞状やトロフィー、記念品が授与された。嬉し涙を流すメンバー、大賞を逃して悔しそうな表情を浮かべるメンバーもあり、1年におよぶ活動の充実ぶりが伺えた。最後に、大久保委員長より「これまでで最もわかりやすく理解しやすいプレゼンテーションで、どのプロジェクトも高いレベルの活動を実施してきたことが伺えた」と総評が述べられ、盛会のうちに幕を閉じた。



同志社ローム記念館大賞

トロフィー・賞状・副賞(賞金5万円・記念品)

ベストプレゼンテーション賞 (学生メンバー相互評価)

賞状・副賞(記念品)

スタディドット VR

- プロジェクトリーダー
竹永 勇真 (同志社大学理工学部2年)
- プロジェクト責任者
大久保 雅史 (同志社大学理工学部教授)
- メンバー数 20名



<授賞理由>

VRを表現方法のひとつとして取り入れたゲーミフィケーションを完成度の高いアプリケーションとして実現したことは高く評価できる。また、チームワークの良さを感じさせる、工夫されたプレゼンテーションも好評価であった。開発されたアプリケーションもリリースのみに留まることなく、体験会などを通して改良を試みるなど、プロジェクトの取組みにも強い熱意を示し、活動全体として審査員の高い評価を得た。



同志社ローム記念館大賞 優秀賞

トロフィー・賞状・副賞(賞金2万円・記念品)

ROBOX

- プロジェクトリーダー
米田 浩崇 (同志社大学理工学部2年)
- プロジェクト責任者
橋本 雅文 (同志社大学理工学部教授)
- 参加団体
けいはんなジュニアロボットクラブ
- メンバー数 9名

<授賞理由>

市場でも流通している部品を使用しながらも完成度の高いすぐにも販売できうる成果物を生み出した点が最も評価できる点である。成果物の開発においてやらねばならないことをすべて実現できたことが成果物の完成度につながり、それが審査員からの高評価獲得につながった。また、成果物そのものだけではなく、教室参加者のプログラミング能力の向上にも目が向けられていたことも評価できる。この授賞を糧に今後も質の高いプロジェクトの企画、実施に励んでもらいたい。



外部審査員特別賞

賞状・副賞(記念品)

たびプロ〜木津川市プロデュースプロジェクト〜

- プロジェクトリーダー
横山 諒 (同志社大学理工学部4年)
- プロジェクト責任者
飛龍 志津子 (同志社大学生命医科学部准教授)
- 参加団体
特定非営利活動法人プロデュース・テクノロジー開発センター
木津川市教育委員会
- メンバー数 23名

<授賞理由>

メンバー全員が何度も木津川市を訪れ、まちの中に積極的に溶け込み多くの市民と触れあう中で、木津川市の魅力をいかに発信するか考え、企画を組み立てた。その結果として食と体験をテーマとした「1日周遊コース」が生まれ、バスの中での土産販売のアイデアもユニークであった。また、ドローンによる空撮映像を使って木津川の自然、文化、歴史をうまく伝えられていた。また、単に観光客を増やすと言った数値目標ではなく、「市民がわがまち木津川を誇りに思ってもらおう」ことを最終目標に掲げた点も高く評価できる。



奨励賞

賞状・副賞(記念品)

スタジオZero

- プロジェクトリーダー
水本 輝寿 (同志社大学理工学部2年)
- メンバー数 52名

<授賞理由>

昨年3月から、本日3月4日の朝まで、笑顔の影に胃の痛み思いの毎日だっただろう。その熱い気持ちを持続しつつ、実際のサポートを事務局スタッフとともにやってきたことが、各チームに伝わっていることが見えてきた。定例の総会、スキルアップのためのサポート企画、8月のステップアップキャンプの実施、広報誌ippoの編集、そして本日の各チームのプレゼンテーション力のアップに大きく貢献した事を鑑み、平素は「縁の下の力持ち」という立場ではあるものの、今回表舞台にて賞を贈呈したい。

2016年度 プロジェクト活動レポート

「こんな理科の授業やったら勉強するわ！」

スタディドットVR



スマートフォンを使ってVRの世界を体験しながら理科を学ぶ「マナリカVR」を開発、公開した「スタディドットVR」。アプリでは、理科の知識を使いながら暗号を解いたり、道を選んだりしながらゲームを進める。攻略サイトでは、物理・化学両ステージの解説もあり、楽しいだけでは終わらない工夫があり、ゲームを通して学んだことを思い出し、理解を深めるきっかけづくりを提供する。

没入感を大事にしつつも酔いにくく、遊びの要素を取り入れつつもしっかり学びにつながる、そんなアプリ開発には、利用者との対話が不可欠だった。同志社クローバー祭をはじめ、けいはんな情報通信フェア<11/10(木)～12(土)>、同志社EVE<11/26(土)～28(月)>、同志社中学校での体験会実施<2/20(月)>など、中高生から大学生、社会人まで、実際に多くの人にアプリを体験してもらい、生の声を聞いた。VRアプリに触れた新鮮な驚きから、楽しい！勉強になる！とのうれしい声も聞かれ、体験会を行うごとにダウンロード数も増加、1000人を超える人たちに提供できた。アプリの公開、攻略サイトも引き続き行っている。ぜひお試しください。

子ども達とともに考える環境

えこ学@京田辺



環境問題には、ひとつの明確な答えがあるわけではない。子ども達がいかに興味を持ち、「考える」ことができるか。伝え手であるメンバーこそが、わかりやすく、楽しく伝える工夫をじっくり「考える」、そんな1年だった。

小学校の先生とのコミュニケーションも密にはかり、1コマずつのテーマもきちんと絞った授業計画を組み立てる。各回の授業も、ストーリーの導入や実験で子ども達が興味を持って授業に取り組めるように工夫した。はじめての授業、初めてやってきた大学生たちを前に、子ども達の緊張が自分達にも伝わり、電子黒板の画面を差す手も震えた。しかし、すぐに打ち解けて大きく手を上げる子ども達に元気をもらい、「なぜだろう？」「わあ、すごい！」と楽しく授業に取り組む子ども達に、背中を押されるようにやり遂げた10コマの授業。

昨年度の授業で最も苦戦した「動物」の授業では、食物連鎖をわかりやすく伝えようとカードゲーム形式のツールを取り入れ、今年度のアンケートでは最も高い評価を得た。

もっともっと、更に良い授業にしたい。次のステップとして、「@京田辺」の名にふさわしい、京田辺ならではのプログラムの開発に挑戦する。

学生がつなぐ新たな“きづな”

たびプロ ～木津川市プロデュースプロジェクト～



今回のテーマは「たび」。1日周遊をキーワードに色んな企画に挑戦した。何度も木津川市に足を運んでツアーコースを組み立てる。地元中学生のおすすめスポットも調査し、様々な視点で何度も企画を見直した。こうして完成したのが11月20日(日)に開催したバスツアー「きづな旅」だ。目玉は市内店舗の協力で実現したお土産企画とQRコードを用いたウォークラリー。どちらも大好評で、また木津川市を訪れたい、との声も多く聞かれた。さらに、中学生とともにつくった木津川市の魅力満載の冊子「Hop KIZUpp Jump!!」を発行、オリジナルのPRムービーも制作、配信中だ。

活動を通して木津川市内でお会いした方 への「1,878名」。「木津川市プロデュースプロジェクトです。」と言えば、多くの方に「知っている！一緒に頑張ろう。」と応援してもらえるようになった。こうしたまちの人たちとの関わりが、このプロジェクトの楽しさ、学びであり、何より大きな収穫だ。

行くたびに温かく迎え、時に厳しくアドバイスをくださったまちのみなさん、助けてくださった方々に感謝し、大好きな木津川市にもっと多くのファンをつくるべく、新たなチャレンジへと進む。

「つくりたい！」の思いを大切に

technologica



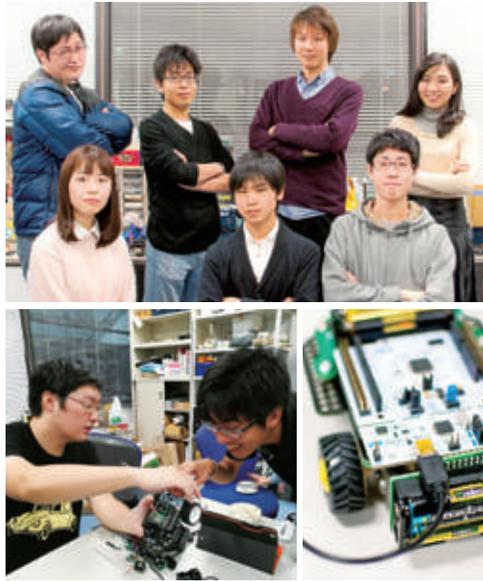
ロボットをつくりたい！そう思う人たちに寄り添う活動を。technologicaがロボットコンテストへの出場と並行して取り組んだのは、「はじめてのロボットづくり」で自分達が感じた不安を少しでも減らすツールの開発だ。

当初はアプリ開発を目指したが、アンケートや他大学のロボット製作団体との技術交流会での調査を通じて、ロボット製作ガイド「Robby」づくりへ軌道修正した。「つくりたい！」という思いから「できそうだし」までのハードルの高さを改善したいと思うのは、自分達に経験があるからこそ。まずは全体像をつかむことを最優先に構成し、さまざまな文献を調べ、他大学との技術交流会も企画・実施。コンテストへの出場での経験もすぐに活かすことができた。初心者だった1年生メンバーも、各自の得意分野を活かして工作機械を使った加工、回路の設計ソフトをそれぞれ習得、チームでのロボットづくり、メンテナンスができるようになった。

自分達らしいロボットでチャレンジしたNHKロボコンでは、主要メンバーのインフルエンザでの離脱、ビデオ撮影の失敗など、さまざまなトラブルがあったが、なんとか第一次ビデオ審査をクリア。ロボットづくりも、時に気合と根性がものを言う。「つくりたい！」気持ちの大切さを改めて実感した。

電子工作の楽しさを伝える

ROBOX



布団の中で何度も組み上げる手順をイメージする、買って来た部品を前に心が躍る、鼻歌混じりに工具を握る。

自分でロボットつくる楽しみを知り、日本のものづくりを支える人を育てる「教育ロボットキット」の開発に取り組んだのが「ROBOX」だ。けいはんなジュニアロボットクラブとの連携により、すでに初級のロボット製作経験者である中高生を対象にプログラミング重視の教室を企画・運営、教材開発を進めた。

よりコンパクトな機体にしよう！ 本物の電子工作のプロセスを体験してもらおう！ 自分で考え、納得してつくれるキットに仕上げよう！ 教室での受講者とのコミュニケーションを通じて思いは強くなる。教室を離れても、自分で工夫、改良し続けられるよう、特別な工具を必要とせず、特殊な規格の部品も使わない。実際の教育現場で使われるクオリティにこだわった。

最終成果報告会を前に、自分達のこだわりを、「伝える」視点で改めて見なおし、急遽映像の制作にも取り組む。最後まで「ROBOX」らしさを追求した1年となった。

大学スポーツを観に行こう！

同志社スポーツ応援隊



後半の活動では、観戦バスツアーがメインとなった。10月24日(土)には、野球部伝統の一戦「同立戦」を、12月3日(土)には、ラグビー関西大学リーグの事実上の決勝戦となった対天理戦を観戦するバスツアーを行った。バスツアーでスタジアムへ運べる観客の数は数十人ほど。しかし、バスツアーは、ラグビーファン同士の新たな出会いの場となった。当日配付した選手名鑑やバス車内での部員によるルール説明などの企画により、スポーツや、同じ大学に通う選手たちの新たなファンづくりができた。初めての観戦の機会を、楽しく、充実したものとして提供できたことで大学スポーツ観戦の良さや楽しさを体感してもらうことができた。

また、スタジアムを盛り上げようと観客に配付したフェイスペイントシールの企画が、野球、ラグビーにとどまらず、アメリカンフットボール部の試合でも取り入れられるなど、他のスポーツへも広がりを見せている。同志社スポーツ応援隊の活動が、大学スポーツを盛り上げるひとつのきっかけとなり、今後のさまざまな学生の動きにつながることを期待したい。

頼られるZeroを目指して

スタジオZero



プロジェクトの成功を支えるチームとして唯一、毎年継続して活動を行う「スタジオZero」。今年度、特に意識したのはプロジェクトに参加したメンバーの「達成感」。そのために、チームに貢献できるメンバーになるための「スキルアップ」、各チームの活動や成果のレベルアップを支援する「客観的評価を得られる場の充実」に努めた。

秋からは2年生中心の新体制へ移行、チーム運営の不慣れさに、しっかりしなければ、という気負いも手伝い、重苦しい雰囲気での会議が続いた。「楽しいイベントをつくるはずの自分たちが楽しめていない！」と活動や会議の場づくりにも改めて目を向け、活動の質を上げる努力を重ねる。

2017年度の活動テーマを「頼られたい！」と決めた。約50人の大所帯、コアメンバーもそれぞれの持ち味を活かした役割分担で編成、各企画のタスクもメンバーの主体性を大事にしながら割り振る。メンバーの半数を占める1年生も、春までには他のプロジェクトから頼ってもらえる1人前の「Zeroメンバー」になるべく、1年生だけの約4ヶ月のプロジェクトを実施。更に楽しく、高めあえるチームづくりを目指し、新年度に備える。

Pick up!

感謝のことは

大久保 雅史 (同志社ローム記念館プロジェクトWG委員会委員・同志社大学理工学部教授)

2008年4月より同志社ローム記念館プロジェクト運営委員長として、9年間にわたりプロジェクトの運営に関わって参りました。2017年4月から新たな委員長に道を譲ることになり、この9年間を思い出しています。本プロジェクトがはじまった2003年当初、教員と事務局が中心となり試行錯誤で様々なイベントを開催していました。たとえば、夏のステップアップキャンプでは、企画から運営までを教員・事務局が行い、その内容も講演会を中心としたものでした。その後、少しずつ学生が自分達の「プロジェクト」を考えるようになり、現在は、プロジェクトの学生サポートチームであるスタジオZeroがキャンプや報告会などすべてのプロジェクトイベントを担っています。

また、2016年度は、各チームが精力的に活動し、大賞を受賞したプロジェクトだけでなく、最終成果報告会に参加したすべてのプロジェクトが賞賛に値する成果を挙げました。学生主体のプロジェクトとして独り立ちできるようにしました。今後は、学生主体という理念を崩さず、社会のニーズにいかに対応していけるか、地域や企業との連携のあり方を含め、さらに模索していく必要があると感じています。

最後になりましたが、これまで支えて頂いた委員会委員およびプロジェクト関係者の皆様、事務局各位には、深く感謝しております。ありがとうございました。

同志社ローム記念館プロジェクトが益々繁栄し、本プロジェクトを巣立っていく学生が社会で大いに活躍することを願ってやみません。今後とも皆様のご支援とご鞭撻を何卒よろしく御願いたします。



Pick up!

同志社クローバー祭2016

11月5日(土)、6日(日)、地域との連携による学園祭「同志社クローバー祭」が開催されました。開校30周年を迎える京田辺キャンパスを舞台に「感謝無限大!!」のキャッチフレーズで展開された今回の祭では、各プロジェクトが館内外でイベントやブースの出展、出店で参加。館内は魔女や星などミステリアスな装飾で来場者の目を楽しませる「ルーム魔法学校」に。2日間とも晴天に恵まれ、どのブースにも家族連れを中心に多くの方にご来場いただきました。

スタディットVR	たびプロ〜木津川市プロデュースプロジェクト〜	IJA〜Internationalizing Japanese Arts〜
科学の世界で謎を解け！ 〜理科室からの脱出〜  <p>様々な科学実験とVRスマホアプリに隠されたヒントを頼りに謎を解いていく脱出ゲームと、アプリ体験会を実施。実験に興味を示す子どもやVR体験をする学生などが集まり、大盛況のブースとなった。</p>	KIZUGAWAカフェ 顔ハメパネル展示  <p>館内では木津川市観光スポット「当尾の石仏」の顔ハメパネルを設置。出店ブースでは有名店「中山珈琲焙煎所」の豆を使用した珈琲と、3種のパンケーキを販売。免許皆伝で淹れるこだわりの珈琲は連日完売となった。</p>	チャンバラバトル！ 居合道・日本剣道形演武  <p>チャンバラ形式で相手の頭の上の紙風船を割りあうゲームを実施。子どもたちが行列を作り賑わった。また劇場空間の舞台では大学居合道部と剣道部による演武が披露され、迫力ある姿に観客の視線が集まった。</p>
えこ学@京田辺	ROBOX	technologica
えこラボ@京田辺	突撃!! ロボット!!	TOWARD THE TERRA -ロボットと瑠璃色の地球へ-
 <p>環境問題について楽しく学べる実験教室を開催。ろ過、水質検査等の実験を通し、小中学生に環境について考える場を提供した。環境に関する意識調査も実施し、今後のプロジェクト活動につながるフィードバックを得る機会となった。</p>	 <p>ロボットを操縦して2種類の攻撃を使い分け相手を倒すゲームを行った。参加者の反応は良好でリピーターも多く見られた。耐久性、拡張性などの点で、開発中のロボット教材へ活かせることも多く、有意義な場となった。</p>	 <p>夢告館での実施。ロボットの操作体験やコンテンツに出場したロボットの展示、開発中のシュミレーションアプリの試遊を行った。参加者には何度もプログラムを書き直して挑戦しようとする小学生も多くみられた。</p>
同志社スポーツ応援隊	スタジオZero	広報誌ippo
同志社五輪2016 Lacrosse GO! 体育会選抜総選挙	みならいまほうつかい！ 〜あっちでこっちで大活躍〜	
 <p>5日にティヴィス記念館にてスポーツ大会、6日に図書館裏においてラクロス体験会を開催。スポーツの体験は好評であった。またイベントやパスターの事前広報を兼ねて行った「アツい」クラブを選ぶ企画でも、多くの票を集めた。</p>	 <p>ルーム記念館を魔法学校に見立て、参加者に見習い魔法使いになってもらい、先輩魔法使いからの依頼をこなしながら各PJブースを巡るラリー型イベントを実施した。</p>	

Event Report

イベント報告 2016年10月～
2017年3月

bプログラム「アロハフェスティバル」
10月6日(木)
主催：同志社大学 学生支援センター



ルームフェア2016
11月1日(火)・11月2日(水)
主催：ルーム株式会社



セメスター留学@ウィニベグ 現地報告&留学説明会
12月27日(火)
主催：同志社大学 セメスタープログラム・英語I・II
(ウィニベグセメスター留学2016)



第11回全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺
2月26日(日)～28日(火)
主催：「全国大学まちづくり政策フォーラムin京田辺」実行委員会
共催：京都府京田辺市 同志社大学



イベント

京都市×同志社女子大学情報メディア学科
森・有賀ゼミ3年次生共同制作「京都市動画作品発表会」
10月4日(火)
主催：同志社女子大学 学芸学部 情報メディア学科

bプログラム
「内藤日和短編映画上映会」12月2日(水)
「世界のギター博覧会&コンサート」12月14日(水)
「クリスマスコンサート」12月22日(木)
「カリンバ奏者 木佐貫洋平コンサート」1月24日(火)
主催：同志社大学 学生支援センター

Doshisha Spirit Week 2016秋 同志社大学応援団演舞
10月31日(月)
主催：同志社大学 キリスト教文化センター

キャリアメグロバール〜やっぱり英語力?〜
「会社で英語を使う時」
11月22日(火)※今出川校地 良心館からの中継
主催：同志社大学 国際化推進室

ステップアッププログラム
「返済…遅れるとどうなる?」・「スマホ・ケータイ安全教室」
12月5日(月)・6日(火)
主催：同志社大学 学生支援センター

TOEICセミナー
1月13日(金)※今出川校地 良心館からの中継
主催：同志社大学 国際センター 国際課

日本マイクロソフト
エバンジェリスト澤 円氏に学ぶプレゼンの極意
1月16日(月)
主催：同志社ルーム記念館プロジェクト「スタジオZero」

グローバル教育センター
海外フィールドワーク科目説明会(アメリカ・ベトナム)
1月17日(火)・1月18日(水)
主催：同志社大学 国際教養教育院

アメリカ海外インターンシップ概要説明会
1月25日(水)
主催：同志社大学 キャリア支援課

2016年度同志社女子大学情報メディア学科
ポスターセッション「Cross Talk2016」
2月17日(金)
主催：同志社女子大学 学芸学部 情報メディア学科

2016年度同志社女子大学情報メディア学科
進級制作展「tsubuzoroi」
2月17日(金)～22日(水)
主催：同志社女子大学 学芸学部 情報メディア学科